



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

# 蔵通信 二九号

2012.2



第二十八話 父母を慕いて

絵金百話

シリーズ

発行：絵金蔵運営委員会  
発行日：2012年2月1日  
〒781-5310  
高知県香南市赤岡町538  
Tel.Fax 0887-57-7117  
ekingura@mxi.netwave.or.jp  
http://www.ekingura.com/



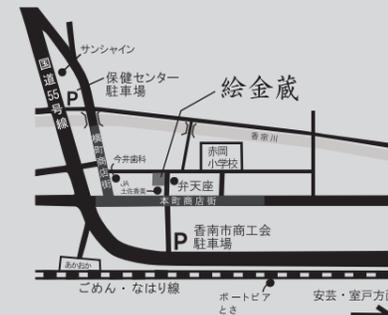
闇、目覚める。

## 香南市絵金生誕200年記念事業

須留田八幡官宮祭 平成24年7月14・15日(香南市赤岡町)  
絵金祭り 同7月21・22日(香南市赤岡町本町・横町商店街)  
絵金歌舞伎公演 絵金祭り両日(舟天座)・11月11日(高知県立美術館)  
絵金蔵展示室リニューアル公開 平成24年7月～  
えくら復活展 絵金祭り・須留田八幡官宮祭りの4日間 ほか  
香南市絵金生誕200年記念事業実行委員会(事務局：香南市商工水産課 Tel.0887-57-7520)

### 【絵金蔵】

開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時半まで)  
観覧料  
大人500円 高校生300円  
小・中学生150円  
(15名以上の団体は各50円引き)  
休館日  
毎週月曜日  
(月曜が祝日の場合は火曜)  
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

### 絵金蔵の三つの使命

年に一度 絵金の文化を守るため  
：伝承 次世代へ伝えるため  
：縁結び 地域を超えて世代を超えて

# INFORMATION

絵金は高知市・真宗寺山の夫婦墓にひっそりと眠っています。これまでよく位置がわかりにくい、といったお声をいただいておりますので、生誕200年となる今年、来る命日に皆さまと一緒に参りたいと思います。

どうぞお誘い合わせのうえ、ご参加くださいませ。

**2012年3月8日(木) 13:00 現地集合**

集合場所：高知市薊野 真宗寺山麓(下記地図参照)  
定員：20名 所要約1時間・参加無料 ◎小雨決行  
お申込み：絵金蔵まで、電話・faxまたはe-mailでお申し込みください。

[電話・fax] 0887-57-7117 (月曜休館)

[e-mail] ekingura@mxi.netwave.or.jp



## 絵金墓参り参加者募集

二〇一二年は絵金生誕二〇〇年



### < 集合場所までの交通機関 >

- 真宗寺山墓所  
高知市薊野北町1丁目13番地
- バス 「西薊野」バス停下車 (サニーマーケット前)  
集合場所まで徒歩約1分
  - JR 「薊野」下車 (JR上り線「高知」駅の次)  
集合場所まで徒歩約15分

※周辺には駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

※20分ほど山道を歩きます。急な坂道もございますので、歩きやすい服装でおこしてください。



EKINGURA one-year passport

絵金蔵にて年間パスポート、はじめました。

特典多数！詳しくは絵金蔵まで。

### まちの素敵を探して、歩いて。

#### ★町歩きカバンをお貸しします★

参加方法 絵金蔵受付にて参加受付。受付表に名前を記入し、町歩きセット一式が入ったカバンをお受け取りください。  
※ 荷物預りあり(無料)

受付時間 午前9時～午後3時半 (絵金蔵開館中)  
午後4時半までに絵金蔵にお戻りください

参加料 300円(ラムネ代込み)

[お問い合わせ]  
絵金蔵 TEL.0887-57-7117  
※ 団体の場合は要予約



あかお えきんぐら  
カルタで  
田歩き

# 絵金百話

## 第二十八話 父母を慕いて

けいせい あわ なると じゅうろべえ すみか  
傾城阿波の鳴門 十郎兵衛住家

### < 概要 >

『傾城阿波の鳴門』※1は明和5年(1768)6月、大阪・竹本座で時代物の人形浄瑠璃として初演されました。近松半二・八民平七・寺田平蔵・竹田文吉・竹本三郎兵衛による合作で、「阿波鳴門物」※2といわれる浄瑠璃・歌舞伎の演目の中でも最も良く知られる作品のひとつです。近松門左衛門『夕霧阿波鳴渡』を下敷きに、阿波城主・玉木家のお家騒動、阿波十郎兵衛の伝説を織り込んだ物語です。

阿波藩家老・桜井主膳は、主家から預かっている名刀を紛失し、かつて不始末を起こしたため勘当していた阿波十郎兵衛に刀の詮議を命じます。十郎兵衛と妻お弓は幼い娘を祖母に預け、盗賊に身をやつし刀の行方を追います。ある日成長した娘が巡礼姿で尋ねてきますが、十郎兵衛は金目当てに殺してしまいます。しかし娘の持っていた手紙から、刀を盗んだのは悪臣・小野田郡兵衛であることが発覚、阿波に戻り郡兵衛を討ち取り事件は解決、主家は安泰したという内容です。

第8段目の「十郎兵衛住家」は特に名高く、今日『傾城阿波の鳴門』といえばこの8段目、とりわけ娘と出会ったお弓がその後を追う、「巡礼歌」の場面が独立して上演されることがほとんどです。舞台となった徳島では、ご承知の通り江戸時代より人形浄瑠璃が盛んで、人形芝居を興行する座でこの演目ができないところはないといわれています。

本作に登場する阿波十郎兵衛は、実在した徳島の庄屋・坂東十郎兵衛をモデルにしています。十郎兵衛は、肥後から輸入される米の管理をまかされていましたが、部下の不正を見つけ摘発します。しかしその不正は、露見すると藩の存亡に関わる重大事であったため逆に罪を被せられ、十郎兵衛は息子ともども元禄11年(1698)処刑されました。妻お弓と娘のお鶴は他国へ追放となり、病没したと伝えられていますが、その真偽は定かではありません。しかしこの話は十郎兵衛没後から70年を経て、口説や手まり唄などいろいろな形で全国的に語り継がれてきました。

赤岡町の海沿いの地域にはこの物語を数え唄にした民謡「たんば」が、新盆を迎えた家々の庭で死者の霊を慰める夏の盆踊り唄として伝えられています※3。また香南市内には本作を描いた芝居絵屏風が2点残されており、いずれも我が子と知らず殺してしまった親の悲しみの極みを中心に描かれる一方、捕手と戦う十郎兵衛を描いた背景にはユーモラスで軽快な動きがあり、その対比も見どころです。今回もどうぞお楽しみください。

※1 同名の作品に、歌舞伎狂言の『傾城阿波の鳴門』(近松門左衛門 元禄8年(1695年)初演)があるが、内容は本作と異なる。  
※2 夕霧・伊左衛門の情話に、阿波のお家騒動や阿波十郎兵衛の伝説をからませた筋立の、人形浄瑠璃・歌舞伎狂言の一系統。  
※3 『赤岡町史』赤岡町教育委員会 昭和55年7月

# 第17回 \ あかおか別天地 / 冬の夏祭り

毎年12月第1土日に開催される、赤岡三大祭りのひとつ、「冬の夏祭り」。今年も大盛況でした!!



「バナナの叩き売り」  
巧みな口上に引き込まれ、あっという間に人だかり。



マジシャン登場!

600円!  
まだまだ高いか、  
580円!



いらっかい  
ませ〜  
何になさる〜?



地元銀行がこの日だけ奉行所に変身。  
ここで現金を冬の夏祭り  
限定通貨の小判に両替。  
ホントの銀行職員です。



絵金蔵の、  
屏風絵保存  
修復バザー



その場で絞る  
ゆずジュース



路上で  
堂々と  
こたつに  
入れる!

【テーマ】  
毎年新しいテーマに沿った演出がなされています。例えば「まちは劇場」がテーマだった年は、時代劇さながらの町人や侍姿の衣装をした人達が歩きまわっていたり、「ボンジュール赤岡」の年は、紙コップで作ったおしゃべりな赤岡シャボを販売、かぶれば誰でもバリジャン気分を味わえたりなど、「参加しなければ損!」と思わせる楽しい工夫がされています。  
今年のテーマは「あかおか別天地・まちの角々覗いてみればそこは赤岡別天地」。小さい商店街のあちこちでバナナの叩き売り、道の真ん中に据え置かれたミニギャラリ、別天地ボックス、突然はじまる大道芸、弁天座で模擬奉式を挙げた花嫁・花婿さんによる赤岡の昔ながらの結婚式を再現した「嫁ぐばり」(花嫁行列)など、懐かしくて新しい催しが見られました。

【支える人達】  
冬の夏祭りを支えているのは有志でつくる「冬の夏祭り実行委員会」、そして通称「お助けマン」と呼ばれている、常連の学生さん達や県内外の作家さん達。みんなが集まり、毎年テーマを考えアイデアを出し合っています。「誰でもここに来れば楽しめる」「みんなで作る祭り」そんな夏の祭りを、実行委員会やお助けマンが主体になり、参加者と一緒に形づくっています。

冬の声  
このノリが  
なんかい!  
来年も  
絶対来たい

毎年  
行っても  
飽きません  
12月といえど  
冬の夏祭り

帰る頃には  
みんな  
知り合い  
状態に♪

冬の夏祭り  
ホームページ  
http://fuyu-natsu.com

## ◆阿波の人形師

人形芝居に使う木偶人形を作る人形師を多く輩出した徳島で、人形師の元祖と言われているのが駒蔵です。仏師でしたが人形遣いとなり、後に人形師になったといわれています。人形富は、京の御所人形の塗りを阿波人形に導入し美しい色艶を与えました。彼の門下からは、天才と謳われた天狗久はじめ人形忠、天狗弁らの名工が出、阿波人形が発展していったのです。



天狗久の作品と伝えられる赤岡のえびす人形。かつて沿岸部では初春の祝福芸としてこの人形を舞わす「えびすまわし」が行われました。  
昭和58年 田辺寿男撮影 高知県立歴史民俗資料館蔵

## ◆阿波人形座

人形浄瑠璃を行う阿波の人形座は江戸時代から素人によって演じられていることが多く、現在でも徳島県下で活動をしている座は多数あります。一八〇年以上地元の人々の手で受け継がれてきた「中村園太夫座(岡花座)」や「勝浦座」、婦人会活動から生まれた「ふれあい座」など、阿波人形浄瑠璃振興会※に登録されているだけでも一四の座があります。小学校・中学校・高校・大学でもクラブ活動として積極的に人形浄瑠璃を行い、文化の継承・若手の育成につとめています。

## ◆もっと阿波人形浄瑠璃を知る

【徳島県立阿波十郎兵衛屋敷】  
阿波十郎兵衛のモデルとなった実在の人物、坂東十郎兵衛の屋敷跡にある資料館では、木偶人形や衣装の展示に加え、地元人形座による人形浄瑠璃の定期公演が行われています。  
徳島市川内町宮島本浦一八四  
電話：088-665-2202

【徳島市天狗久資料館】  
人形師・天狗久の旧工房の公開、天狗久関係資料の保管、記録映画『阿波の木偶』の上映を行っています。  
徳島市国府町和田字居内一七二  
電話：088-6643-2231

【松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館】  
人形浄瑠璃の盛んな芸所として知られた松茂町の歴史・民俗を知ることが出来ます。  
徳島市板野郡松茂町広島字四番越一一一  
電話：088-699-15995

【淡路人形座】  
伝統ある淡路人形芝居の定期上演・臨時公演のほか、人形の構造やしくみ、動かし方が学べる人形講座が行われています。  
兵庫県南あわじ市福良丙九三六一三  
電話：0799-152-0260

【参考文献】  
『改訂 日本の人形芝居』永田衛吉  
錦正社 1974年7月

※財団法人阿波人形浄瑠璃振興会

# 絵金を、読む。

けいせい あわ なると じゅうろべえ すみか  
 傾城阿波の鳴門 十郎兵衛住家

二曲一隻屏風/紙本着色/160.0×177.0cm  
 香南市・武内昭氏所蔵

## — あらすじ —

阿波城主・玉木家の重宝である名刀「国次」が何者かによって盗まれる。刀を探しだすため、阿波十郎兵衛・お弓夫婦は盗賊となり、大坂・玉造をねじろに各地を探索している。

ある日、盗賊仲間より、今いる場所は危険であり早く逃げよとの知らせが届くが、折りしも十郎兵衛は不在。

そこに、巡礼姿のかわいらしい少女が報謝※を求めて立ち寄る。少女は生き別れた父母を尋ね、巡礼の旅をしている途中だった。あれこれ話すうちお弓は、この少女が3歳の時祖母に預けてきた実の娘、お鶴であるとわかるが、母の名乗りをあげたい気持ちを必死でこらえる。刀詮議のためとはいえ、両親がおたずね者の身分であるとなれば娘の身にまで危険が及ぶと考え、そばに置いてほしいと慕うお鶴を、家に帰れと諭し見送る。しかし名残惜しさをこらえきれずに後を追う。

そのお弓といれ違いで、十郎兵衛がお鶴の手を引き家に帰って来る。追剥ぎに狙われていたお鶴を連れ戻ったのだが、お鶴が小判を持っているとわかるや、借金返済の足しにするため、金を渡せと迫る。怖がり叫ぶお鶴をだまらせようと口をふさぎ、力を込めすぎたためお鶴は死んでしまう。

そこへ女房お弓が戻り、十郎兵衛は実の娘を殺害してしまったことを知る。夫婦は悲嘆に暮れる。ところが、娘の財布の底から、祖母が夫婦にあてた手紙が見つかる。そこには探し求めている刀の行方が記されていたのだった。

※巡礼者に金銭・物品を与えること。

■ お前が殺さしやんしたのかいな。変わり果てた姿の娘を抱きかかえ、あの時母と名乗って引き止めていればと、後悔と悲しみの涙にくれるお弓。「コレ娘、これ程酷い親々を、よう尋ねて来てたもつたの」

■ こはい事や悲しい事も、とゝ様やかゝ様に逢いたさ故…顔も知らない父母を訪ね、つらい野宿を続けてはるばる大坂の地に来たお鶴。父母との再会を果たしながら、それと気付くことなく死んでしまいます。

## 物語る小道具 ～ 主君との約束 ～

かつての上司・桜井主膳が、刀・国次を探し出した暁には、勘当を解き元通りの主従関係を約束する証拠の品として十郎兵衛に与えた刀。

■ 切つて切つて切り抜ける。代官所に訴えられたため、家を打ち壊される十郎兵衛。しかし刀のありかを知り、力を得て捕手達を派手に蹴散らします。

祈りの黒煙  
 十郎兵衛が捕手と格闘している際に、娘の遺体が人手に渡らぬようにと、お弓は外れた戸障子を積み重ね、火をかけ茶毘に付します。その後夫婦は手を合わせ、阿波へと向かいました。

## ■ 母からの手紙 「十郎兵衛殿夫婦の衆へ」

お鶴の懐中から、祖母（十郎兵衛の母）が亡くなる直前に書いた手紙が出てきます。祖母はひそかに刀・国次の行方を追っており、悪臣郡兵衛が盗み取って手元においてあることを突きとめていたのです。自分の死後は、一人残される孫のお鶴をくれぐれも頼むとも記しています。

「エ、母人の御さいご残念至極と云いながら、有難きは刀の有祈、是と申すも母の御恩、ハア、忝し嬉や」



## 物語る小道具 ～ 西国巡礼者のスタイル ～

お鶴が身につけていた笠、喜捨を受ける柄杓。巡礼の着る白衣・笠摺も着用しています。



## もうひとつの『傾城阿波の鳴門』

同じ場面を描いた芝居絵屏風。祖母の亡霊やお鶴が持っていた小児薬など、台本に登場する要素がさらに具体的に描きこまれています。

二曲一隻屏風  
 紙本着色/145.0×120.0cm  
 香南市・団体蔵



別れに言やった順礼歌※、ちちはは父母の恵みも、どこにこれが恵みが深い、探き粉川寺。こんな酷い親々が、広い唐にも天竺にも、ま一人とある物か…

〔参考文献〕  
 『校訂 近松半二浄瑠璃集』水谷不倒校訂 東京博文館蔵版 1909年4月  
 『叢書江戸文庫39 近松半二浄瑠璃集[2]』国書刊行会 1996年4月  
 『浄瑠璃作品要説<3> 近松半二篇』国立劇場芸能調査室 1984年3月  
 『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月 『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月

※巡礼者が巡拝する時に歌う、仏教の教えを和歌にしたもの。  
 西国三十三ヶ所・第三番札所の粉河寺における巡礼歌（御詠歌）。  
 「父母の 恵みも深き 粉河寺 ほとけの誓ひ たのもしの身や」  
 お鶴がお弓のもとを立ち去った際に歌った巡礼歌です。

